

沿岸実習の醍醐味 いざ、瀬戸内海へ

生徒達はケガ・病気・事故もなく元気に過ごしています。間もなく迎える下船に浮足立つことの無いよう指導をしているところです。

十月十四日より枕崎港を出港し、瀬戸内海へと針路をとりました。瀬戸内海は地理的に潮流が強いところや狭いところ、また、船舶の往来が多いなど航海するうえで難所が多々あります。多くの生徒が内航を希望しているため、瀬戸内海を航行出来ることは、生徒達にとって、とても良い勉強、経験となりました。

瀬戸内海は【海上交通安全法】の適用海域であり、特有の法律などが存在します。なかでも、航路と呼ばれる場所においてはそれぞれ特徴や制限などがあり、航海士を目指す生徒達には知っておかなければならない事の一つです。

生徒達には各航路における操船方法や、航法、見るべき場所などの事前指導を行いました。また、生徒達自ら事前学習や事後学習に取り組み姿も見受けられ、実習の重要性を理解しているようでした。

関門海峡航路

関門海峡は本州と九州を隔てる海峡であり、来島海峡、鳴門海峡と並ぶ日本三大急潮の一つに数えられます。車では渡ったこともある生徒もいましたが初めて関門海峡大橋の下をくぐり、驚きと興奮を隠せない様子でした。また、航路内は船舶の往来も多いため、それぞれのように避けるかなど話し合い、どこに向かうかを旗で確認し航海士さんからの学習を行なうことができました。



来島海峡航路

来島海峡は愛媛県今治市沖の海峡であり、日本三大急潮の一つでもあります。瀬戸内海でも屈指の難所である為、船をまつすぐ走らせるのも難しいです。また、島の間を通過するため狭く、生徒達はその迫力にびっくりにしているようでした。流速は5ノットでしたが小さな渦潮も出来ており、生徒達はメモを取りながら観察や、海図と見比べるなど様々な学習を行いました。



備讃瀬戸航路【南航路→東航路】

備讃瀬戸は岡山県と香川県の間にある海域で、潮流はそこまで強くないものの航路の長さが一番長く、速力制限や他の航路との交差点などもあります。また漁船も多く操業しており定置網などの漁具を避けての航行をしなければなりません。生徒達は間近に通る大型船や漁船に驚きながらも瀬戸内海の綺麗な島々を見ながら学習に取り組みました。



明石海峡航路

明石海峡は兵庫県明石市と淡路島を隔てる海峡であり、来島海峡ほどではないですが、潮流が速いところです。今回通過した際もほぼ最強流速時に通過したため、日本最長である明石海峡大橋をあつというまにくぐり、航路内の浮標(ブイ)もまるで航走しているような姿にあらためて潮流の凄さを体感することができました。



～生徒日誌より～ 【出席番号No1～7】

大塚 歩夢

『今日は来島海峡を通って尾道に入港した。尾道は潮の流れが強く入港作業にとても苦勞していた。来島海峡は関門より潮が強かった』

川路 雄太

『今日は来島海峡航路を通過した。潮の流れが見たことない流れ方をしていたり、航路が思っていた以上に狭かったりして実際に通ってみて分かることが多かった』

河野 蓮

『今日は備讃瀬戸南、北、明石海峡航路を通りました。瀬戸大橋や明石海峡大橋などを見ることができました。この短い間にたくさんさんの航路をとられてとても良い勉強になりました』

北原 嵩規

『今日は来島海峡航路を通過した。関門みたいに浮標はなかったが潮が凄いい形になっていたりしてびっくりした』

下山 巧真

『今日は備讃瀬戸航路と明石海峡航路と友ヶ島水道を通りました。明石海峡の時にワッチで潮の流れや操舵号令、舵持ちなどとてもいいものが見れました。次の航路ではさらに知識を持って臨みたいですよ』

瀬戸口 巧

『今日は運がよく関門海峡を通るときにワッチに入ることができました。トランジットや潮流信号などを自分の目で確かめることができましたのでよかったです』

田頭 直桜

『今日は関門航路での航海だった。航路に入るのは初めてだったので、船の距離が近くて驚いた。覚えなきゃいけないことや勉強になることがいくつもあったのでまた復習したいと思う』

専攻科 海洋技術科

海洋技術科は、2級海技士(航海)の筆記試験合格、3級海技士口述試験合格に向け日々勉強に励んでいます。また、本科生とは違い、出入港作業や航路作成など一段階上の学習を行っています。

今回は沿岸航海実習の為、各航路においては見張りを行う船橋に入り船長・航海士・操舵手の動きをそれぞれ勉強しています。実際の現場を間近で感じ、将来に向け生徒それぞれが自ら考える所があるようです。

今回は本科生と同じ海洋技術コースの為、専攻科生が本科生に対して勉強や、作業、生活面に関しても指導する姿が多く見られ、専攻科生としての自覚も芽生えているようです。

残り少ない日数ですが、一日一日を有意義に過ごして一つでも多くのことを学び、成長し、それぞれの目標に向け頑張ってほしいと思います。



専攻科 機関技術科

機関コースは、サニタリーポンプの開放整備や空調圧縮機の潤滑油交換などエンジンニアとして本格的な内容に取り組んでいます。今までは主機関や発電機の発停、ポンプの運転やストレーナー掃除のような、手順通り覚え実行する実習が多かったが、開放整備はその時の錆や固着などにより固まったものをどういうふうに取り外すか。どんな工具を使いどのよう使用するのか。四時間という縛られた時間で効率良く作業を進めるにはどこを工夫すればよいか。などの今までのないプレッシャーに悩まされながら必死に作業を行っています。

残り航海日数も少なくなってきました。来航海は機関コースの後輩が乗船し先輩として実習をこなしていかなければなりません。本航海でどのように知識や技術を身に付け自分の物にすることができているのかを常に意識し、作業に取り組む姿勢で頑張ってください。

